

初心者からベテランまで、和気あいあい



平成11年に設立された「ALTA写真倶楽部」の会員は、現在15名ほどで、初心者からベテランまでさまざま。月1回、会員の作品を持ち寄って、講師の渡辺庄吉先生に添削をしていただいています。

毎月集まる作品は、ネイチャーから人物、ちょっと抽象的な作品(?)までいろいろ。スライドを使って、みんなで作品を鑑賞します。また、年に2回ほど野外のネイチャー写真撮影会を開催しています。

作品の展示会は、主にALTAのお祭り「ALFESTA」で開催しています。会員の中には写真を撮るのより、カメラを集めるのが趣味の人もいて、カメラ談義、特に怪しげな中古カメラ談義に花が咲いています。

写真を楽しみたい方ならどなたでもご参加いただけます。「ALTA写真倶楽部」に参加したい方は、アルタシロイシ(白石市勤労青少年ホーム)へお問い合わせください。☎25-

市民文芸

応募方法

一人俳句三句、短歌三首、川柳三句以内。はがきに作品・住所・氏名・応募する地名をはっきり書き、〒989-0257白石市宇理町37-3、白石市情報センターへ。短歌、俳句、川柳の併記は不可。毎月15日締め切り。Eメールでも応募できます。(koho@city.shiroishi.miyagi.jp)

歌壇

高橋 辰 男 選

障書を希望にかえて輝けりパラリンピックの
選手等の陣
石田みどり
病む床に届けし果実ら・ふらんすを喜びけれ
し義父の忌は来ぬ 黒沢 修子
店仕舞の貼紙つけてまた一つ町の雑貨屋姿消
しゆく 大庭 良子
一年の最後の収穫豆打ちて拾い集めぬ二升の
豆を 岩松 貞子
種播きて丹精こめて育てたる葉ぼたん鉢に植
えて安らく 山田 濱
明日から一人住まいをする息子の荷作りをす
る秋雨の夜 鈴木 節子
うかららと登りし蔵王のななかまど西陽を受
けて紅極まれり 高うごん
老いの身も菊にかこまれ幸せと思ふ手塩にか
けし報いに 斎藤タカ子
ようやくに我家にかえり眺むればそちこちに
咲く菊の香れり 鈴木セツ子
言つまじと思えど出てくるトッコイショ掛声
と共に老いて行くなり 川村 静恵

【評】一首目。障書を生きる希望に転換した先
ごろのパラリンピック。その感動が「輝く瞳」
に集約された。二首目。新鮮な素材ら・ふら
んすを通して、義父への追想をリアルに伝え
ている。三首目。店じまいの張り紙が、その
まま長引く不況をついて社会性を帯びた歌と
なった。

俳壇

遠藤 秋 尾 選

寺の鐘社の太鼓秋深し 山家 弘子
安達太良はほんとの空よ天高し 日下 文
填輪の目なにかさみしき冬すみれ 佐藤 周子
冬めくや店閉めて山降りる人 高橋 正男
香のぞし所詮は冬のばらなれば 三浦 愛嶺

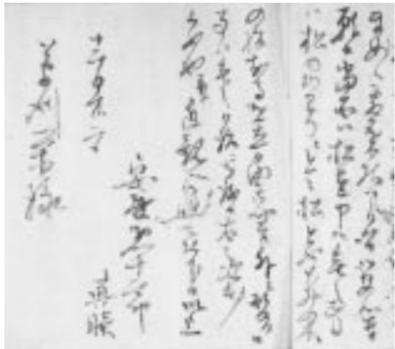
柳壇

山田 風 流 選

バス通る斎川の宿冬の虹
楽屋裏までも練習文化祭
秋雨にふと途切れたる街の音 大庭 良子
秋の陽の川面に砕け落ちにけり 高子たちばな
放牧を終へて帰るや里の秋 遠藤 忠臣
【評】一句目。寺の鐘と社の太鼓が静かな里に
しみるような音に、深まりゆく秋を感じる作
者。二句目。都会の空とみちのく安達太良山
の空との違いを表現した中七の「ほんとの空
よ」が良く、天高しが生きていてるだけで、何
か言いたそうな目が寂しそうで。冬のす
みれに思いを託し心情の深い一句になった。

定年にあつてないよな日曜日 佐藤 武雄
仲人のいらぬ結婚式が増え 大沼 妙子
止む夫の寝息をそと聞き 阿部はぎの
ルーキが替え玉という魔球投げ 四電 英夫
ストレート勝負のできる人が好き 平間 大恵
最終日づくいす嬢の声も囁れ 大庭 良子
赤い糸結びなおしてまた二人 米沢 礼子
家計簿にぶつぶつ妻の独り言 草野 清
調理法添えて土産を娘に持たせ 小野嘉津子
万歩計つるべ落しにせかされる 鈴木 希市
【評】新年明けましておめでとございませう、
本年もどうぞよろしく。選者へのお年玉か今
回はどっさりご投句を頂きました。一句目。
曜日が必要でなくなった定年者には毎日が日
曜日。二句目。世界は二人のためあるの、
仲人も神も不要。形式より合理性を重んじる
人が若い人にも多い。三句目。いびきがピタと
やんでやれやれと思つのに、妻はやんだこと
が心配。愛のある句を称賛します。今年には已
年、実のある句を期待いたします。

白石の古文書 ⑨



弘化安政耳袋3 武藤家文書
北海道幌別郡へは五十六戸・八
十四人が入植した。自費による開
拓は厳しいものであった。さらに
この地は気候が寒烈で米の収穫は
できなかつたが、農耕と漁獵に励
み、明治四年末までには、畑地が
二十一町余に達したという(登別
町史)。

初冬で、本来なら開拓作業は無理
な季節で、村づくりにには相当の苦
難はあつたらう。
こうした困難な開拓生活の中に
あつて、この安齋惣十郎の書簡は、
当時の北海道の自然の恵みの豊か
さや、日本の各地からの諸物産の
流入で、不自由のない生活の様子
の一端を知らせている。
八戸屋には、シヨウガ・サツマ
イモ・畑芋・長芋・ネギ・なんば
ん・かんふら(パレイシヨ)・カ
ボチャ・ダイコンなど野菜は何で
もあり、豆腐・こんにやく・屋もあ
る。みそ・しょうゆは上品で、米
は越後、酒田米で、諸品全く不足
はないとある。また、近所の山に
はワラビ・ウド・フキもたくさん
あり、中でも、秋味(鮭)漁は、
一網に千束余も捕れる。一束は二
十本(匹)というから一網で二万
匹という勘定になる。
最盛期には、浜辺に四方板囲い
をして、山のように鮭を入れ、筋
子は樽詰めにし、白子はもつこで
捨ててしまふなど、盛大な鮭漁の
様子なども書いてある。
北海道開拓初期の現状を知る貴
重な資料である。
(白石市図書館蔵)

カロラインの

国際コーナー International Corner



あけましておめでとうございます！皆さんはお正月をどのように過ごされますか？私は昨年末にアイルランドに帰国して、家族と一緒に21世紀を迎えています。私にとって、今年は白石での最後の年ですが、今年も、皆さんのために、白石市の国際交流活動で頑張りたいと思います。よろしくお願ひします！

今年、国際コーナーでは、市民の皆さんからアイルランドなどについての質問があれば、答えたいと思います。質問のある方はどうぞメールで koryu@city.shiroishi.miyagi.jp まで送ってください。日本語でも英語でもOKですよ！お待ちしております！

アイルランドに帰る前に、いろいろなクリスマス・パーティーと忘年会がありました。11月の末に七ヶ浜で、県内から集まった15人の外国人と一緒に、「感謝祭ホームステイ・ウイークエンド」というイベントに参加しました。皆がホストファミリーの家に泊まって、2日目の夜に七ヶ浜中央公民館で感謝祭パーティーがありました。パ

ーティーは持ち寄りパーティーで、世界のいろいろな国の料理がありました。もちろん、とてもおいしい七面鳥もありました！

私にとって、ホームステイと感謝祭は初体験で、ホストファミリーの皆さんの優しさのおかげで、非常に楽しいウイークエンドを過ごすことができました！



とてもおいしかった七面鳥